

超音波及び注腸X線造影にて直腸膣瘻を伴う
鎖肛と診断し、瘻孔拡張術により完治した
黒毛和種新生子牛1例

(株)益田大動物診療所

澤松祐人、下場仁、番場聡太、高橋海秀、加藤圭介、
山本哲也、原知也、足立全、岸本昌也、加藤大介

(株)益田大動物診療所



はじめに

鎖肛

肛門の形成不全を認める先天的疾患であり、発生原因は後腸形成における排泄腔の肛門膜の開口不全によると考えられている。



- ・通常、単純な鎖肛に対しては肛門形成術を実施。
- ・しかし、腸閉塞や泌尿生殖器系との瘻管など複合奇形を認める場合、手術の成功率は低くなる。



鎖肛の分類

I 型

肛門の狭窄のみ

II 型

直腸が肛門直前で閉鎖している

III 型

II 型に比べ、直腸がより近位で閉鎖している

IV 型

直腸が骨盤腔内で閉鎖している

今回の症例は、直腸が骨盤腔を通過し狭窄しており、III 型の鎖肛である。



患畜プロフィール

症例

種別：黒毛和種

性別：雌

生年月日：2022年2月18日

稟告：肛門なし

現症：T38.6、鎖肛、腹囲膨満(一)

手術実施日：①2022年2月19日(2日齢)←開腹手術

：②2022年2月21日(4日齢)←瘻孔拡張術

転帰：治癒(現在も肥育中)

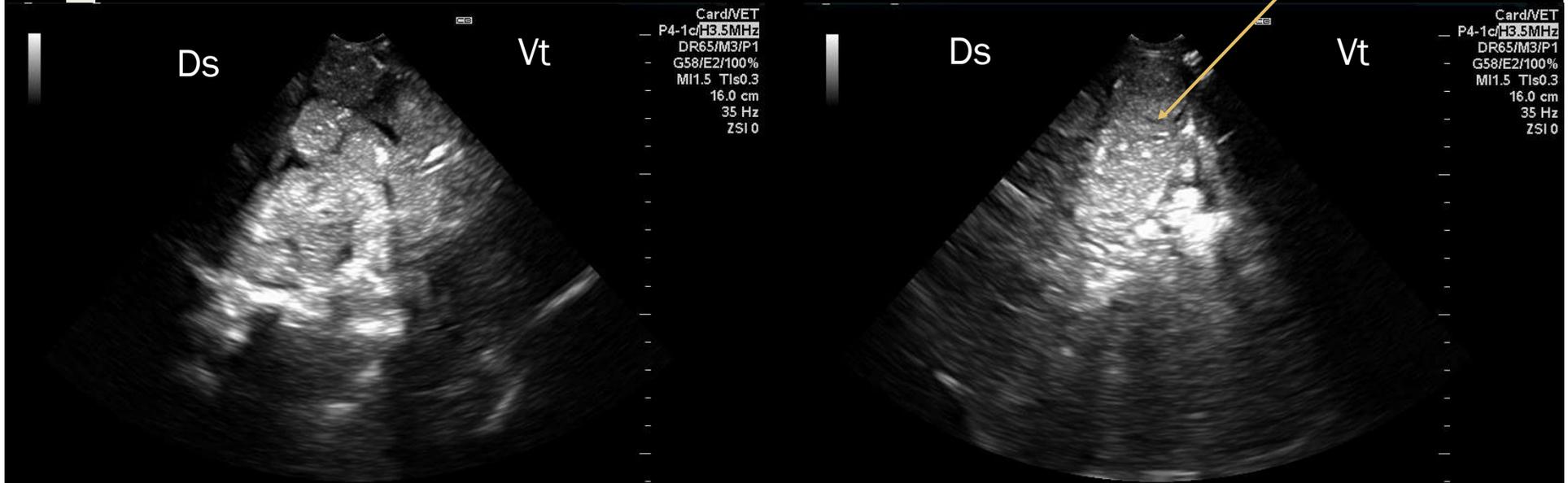
(株)益田大動物診療所



超音波検査所見

立位にて右側臍部周囲より描写
(Ds : 背側、Vt : 腹側)

結腸



- ・ 結腸にて内容物の滞留像、点状高エコー像

(株) 益田大動物診療所

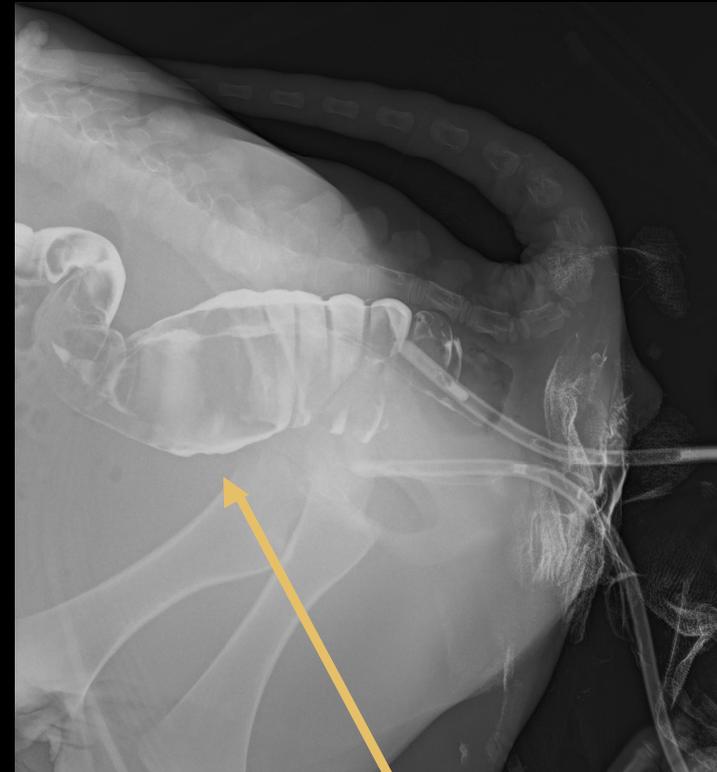


注腸X線造影検査所見

①：瘻孔から造影剤を注入し5分後



②：①より空気を注入し5分後



使用機器：ポータブルX線撮影機(DR-ID300CL 富士フィルム株式会社)
撮影条件：90kV,1.8mAs
撮影場所:牧場内子牛ハッチ置き場

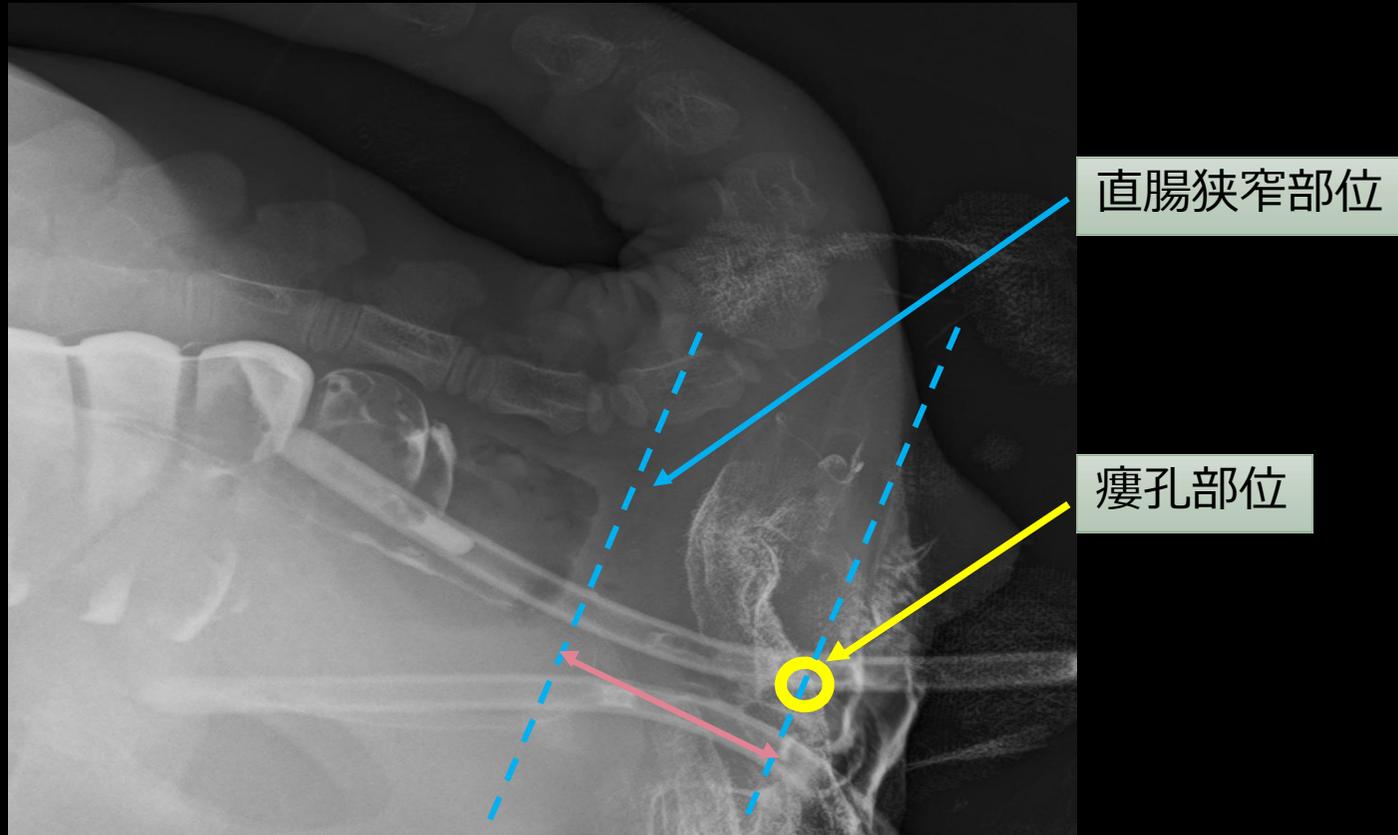
胎便により拡張した結腸

- 瘻孔(便排出孔)狭窄により多量の胎便が停滞
- 腸閉塞併発の否定

(株)益田大動物診療所



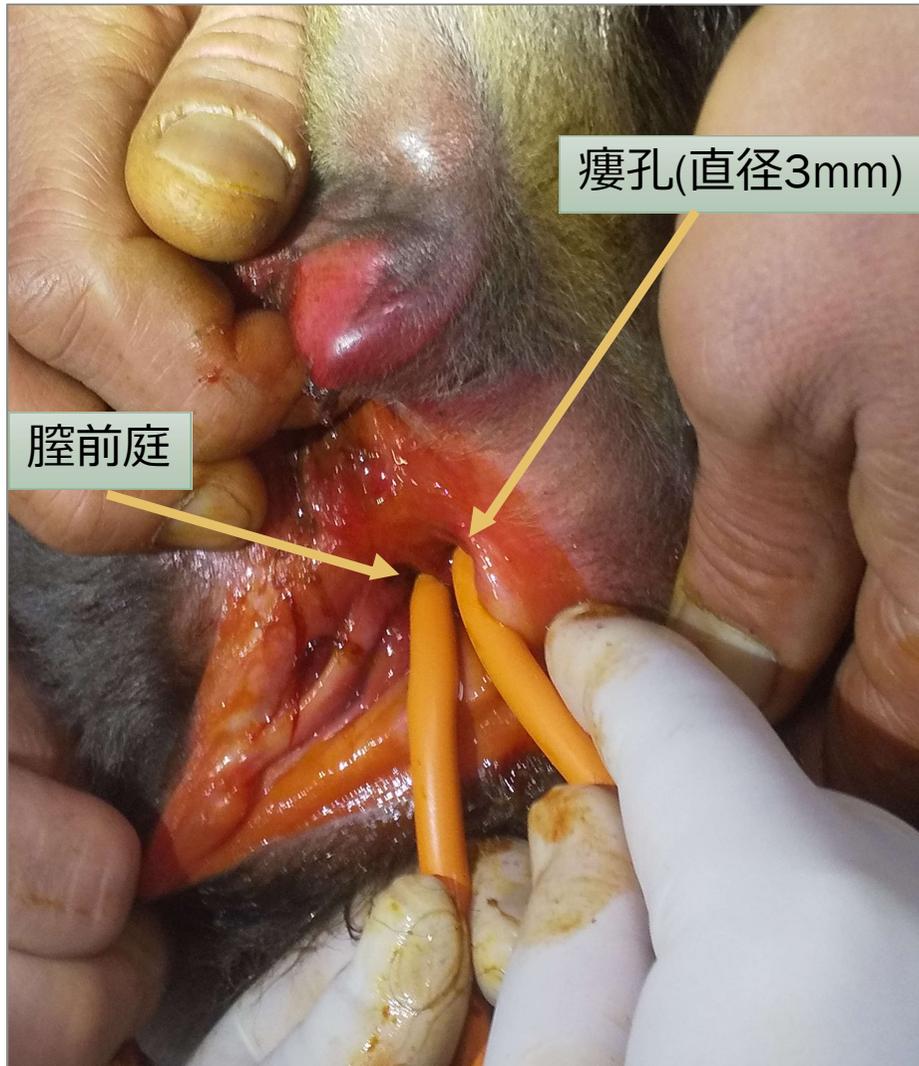
注腸X線造影検査所見



- 直腸狭窄部位を確認
- 直腸狭窄部位と瘻孔の位置より、瘻管を特定



瘻孔より胎便吸引



・瘻孔より生理食塩水を100ml入れ、胎便吸引を試みたが、瘻孔の狭窄、胎便の粘度が要因となり不可



開腹手術



- ・胎便により拡張した結腸を確認。
- ・生理食塩水100mlを瘻孔内に注入、結腸を用手により揉み解し、胎便の粘度を十分に下げ、カテーテルを通じて排便を確認した。



瘻孔拡張術①

開腹手術後2日間、自発排便を認めなかった。そこで瘻管遠位端に認めるリングを電気メスにて切開する瘻孔拡張術を実施した。



- 瘻孔周囲の組織を電気メスを使用し切り進めた。
- この際、肛門括約筋を傷つけないように注意した。

(株)益田大動物診療所



瘻孔拡張術②



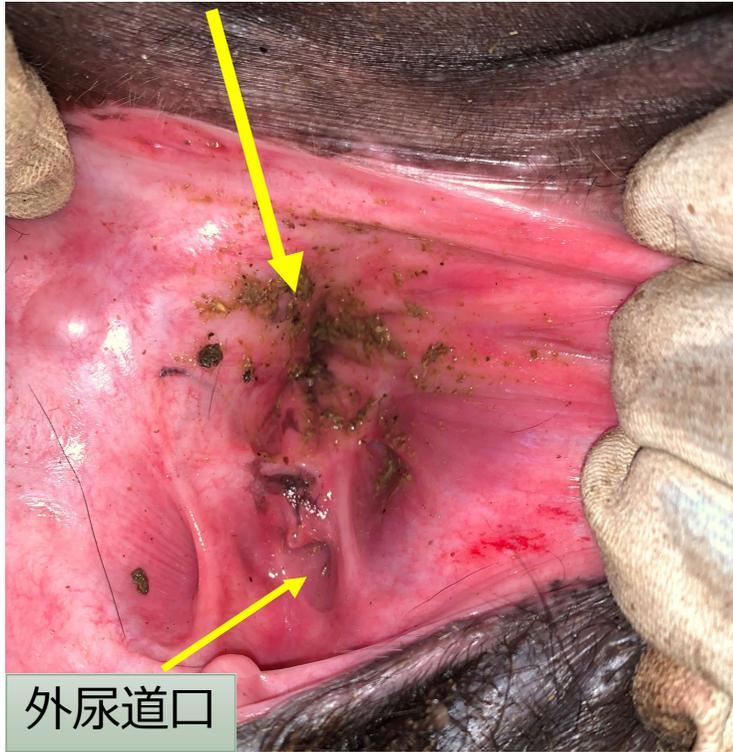
- ・瘻孔を直径3mmから直径12mmまで拡張。
- ・カテーテルからの排便を認める。

(株)益田大動物診療所

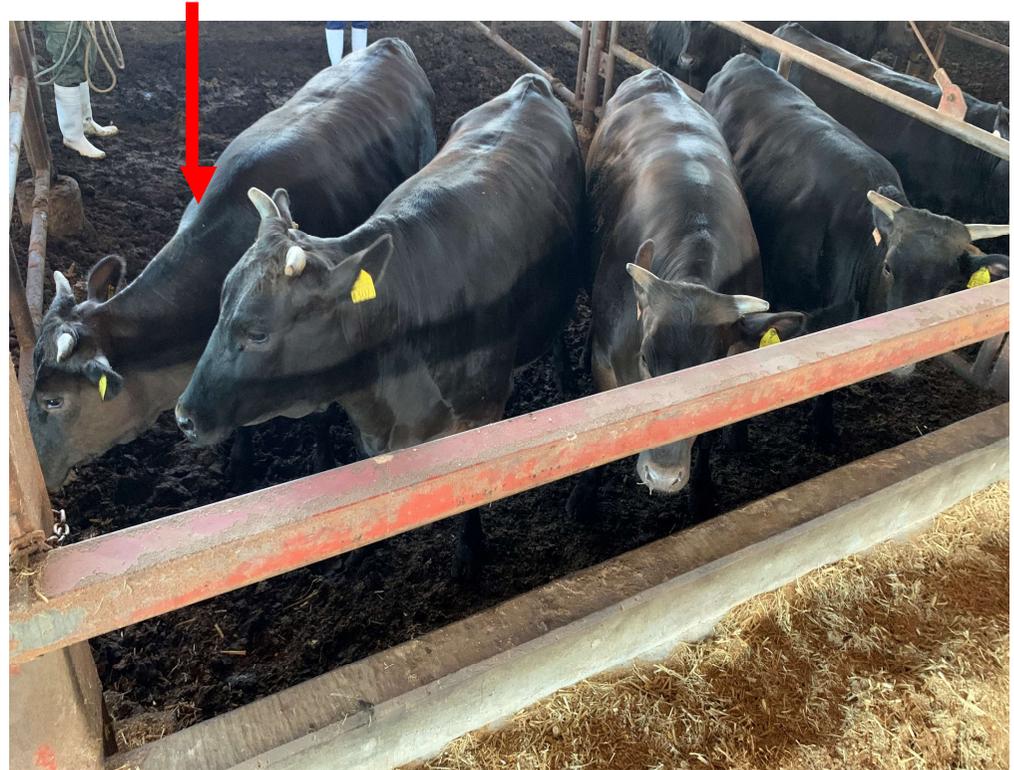


術後経過

瘻孔拡張部位



外尿道口



- ・ 現在、生後18カ月齢であり、排便排尿等に問題は認められない。
- ・ 同じ月齢の個体と発育差はなく、順調に肥育されている。

(株)益田大動物診療所



まとめ

○直腸膣瘻を伴う鎖肛において超音波及び注腸X線造影検査の有用性

- ・ 超音波検査により瘻孔狭窄による胎便の停滞を確認
- ・ 注腸X線造影検査により腸閉塞を否定、膣・瘻管・直腸の連続性を詳細に確認可能

○瘻孔拡張術

- ・ 瘻孔を電気メス用い切開、直径12mmまで拡張し、自発排便を可能にした



まとめ

- ・ 本症例は直腸膣瘻を伴う鎖肛で報告の少ない症例であった。
- ・ 鎖肛と診断し、陰部に便の付着、陰部からの排便が認められない場合においても膣内の瘻孔を疑う。瘻孔を認めた場合、本検査の実施により直腸狭窄部位及び瘻管部位の確認が可能。
- ・ 瘻孔拡張術により転帰良好となることが示唆された。
- ・ 複雑な臓器構造を確認するうえで、超音波検査並びにX線造影検査は有効な検査法である。